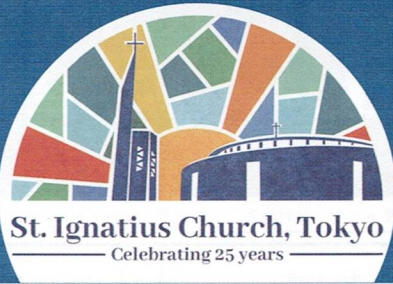


8・9月

カトリック麹町教会

MAGIS



マジス = 「より、もっと、さらに」

教会テーマ

さあ出かけよう 心をつないで イエスとともに
～ともに重ねた25年の喜びのうちに 聖霊の導く未来へ～

道と風とイエスに誘われて

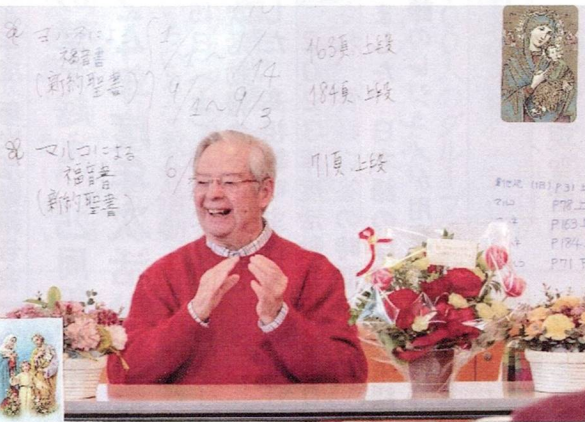
協力司祭 ハビエル・ガラルダ

なぜ自分が今ここにいるのでしょうか。ご自分の人生を顧みる皆さんも知りたいことでしょう。実に不思議なことです。

このところの私自身は、イエス会入会75周年記念、来日65周年記念、イグナチオ教会での叙階60周年記念を皆さんに祝っていたきました。誠にありがとうございます。しかし、なぜ自分ほるもろの事情を乗り越えて今ここにいるのでしょうか。

それは、道に誘われていつの間にかここに来たからでしょう。まさしくアタウアルパ・ユパンキが歌った通りです。「道また道に誘われてここにたどり着いた」。結局偶然に偶然が重なったからでしょう。

それと同時に、「風」の影響が極めて大きかったのです。確かに一本の道しかない時もあつたけれども、自分の前にいくつかの道が現れたのに、なぜ自分はイエスにつながる道をえらんだのでしょうか。



それは「風」のおかげです。「風は思いのままに吹く」(ヨハネ3:8)のおかげです。ギリシア語の「プネウマ」という名詞には二つの意味があります。「風」と「霊」です。ということからは、さまざまな交差点で柔らかに吹いてきていた聖霊のそよ風が、戸惑っている自分を望ましい道へ誘ってくだ

さつたわけです。

結局、「道」と「風」に誘われてここに来たのですが、これからはどこへ行きましようか。

「ある律法学者がイエスに近づいて、『先生、あなたがおいでになる所なら、どこへでも従って参ります』と言った」(マタイ8:19)これは立派な生き方です。しかし、イエスに従うよりも、自分の内に生きるイエスと共に生きるほうが良いと思います。「生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです」(ガラテヤ2:20) イエスは私の内におられるだけではなく、生きるのです。

例で言えば、サラエボの冬季オリンピックの時、アイススケート金メダルを獲得した夫婦は、このように話しました。「私たちは音楽に従って踊るよりも、音楽が踊るようにしています。厳しい練習でテクニクを徹底した上、目をつぶってラヴェルの『ボレロ』を深く、長く聴くのです。体と心が音楽でいっぱいになって、自分を音楽に委ねて音楽がおのずと踊るよ

うにするわけです」

この例を自分に当てはめると、「音楽」はイエスです。「練習」は、「愛し合う」という掟の実践です。音楽を深く「聴く」のは、祈りと黙想の時、イエスの言葉と生き方を心に受け入れ、イエスでいっぱいになることです。「音楽が自然に踊る」のは、イエスが私の内でゆつたりとした気分です。生きるということ

このように「道」と「風」に誘われて歩む私たちは、内にあるイエスが行きたくない所へ行かないで、イエスが行きたい所へ行くのです。「行く」というのは、内なるイエスに連れられて行くと同時に、イエスを連れて行くのです。喜んで大船に乗った気持ちで。

教会報 MAGIS 8月9月合併号

† 2024年度 年次活動報告会	P2 ~ 3
† 教会行事報告	P4
† 教会活動グループ便り ⑫	P5
† つながるプロジェクト ②	P5
† 〈現聖堂 25周年記念連載〉 ⑤	P6
† Family of St. Ignatius ～英語圏から～	P7